

チャレンジ支援委員会

キャリアパスフォーラム 第6弾「日本語学校の現場Ⅱ—採用担当者側の声」

開催報告

日 時: 2026年2月8日(日)14:00~16:00

場 所: Zoomによるオンライン開催

参加者: 参加者30名

登壇者: 加藤早苗氏(インターカルト日本語学校校長)

大和佐智子氏(久留米ゼミナール教務課長)

神恵介氏(新世界語学院校長)

速水希樹氏(ECC日本語学院名古屋校校長)

住田伸夫氏(佐伯民際日本語学校校長)

押谷祐子氏(東北多文化アカデミー代表理事)

チャレンジ支援委員会では、将来日本語教育にかかわりたい方・日本語教育の新たな分野にチャレンジしたい方などに日本語教育業界の多様な現場をよく知ってもらうためのイベントとして、「キャリアパスフォーラム」を年1回実施しています。

第6弾として、2026年2月8日(日)に「日本語学校の現場Ⅱ—採用担当者側の声」がオンラインで開催されました。事前の参加登録者51名のうち14名(27%)が日本語教育学会非会員でした。

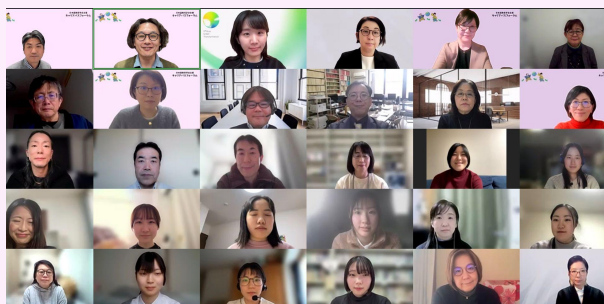
当日は、チャレンジ支援委員会の委員による「趣旨説明」の後、「車座タイム」を2回実施しました。6名の登壇者が3つのブレイクアウトルームに2名ずつ分かれ、それぞれのこれまでのキャリアの歩み、日本語学校における実践、制度改革を背景とした現場の変化などについてお話をいただきました。参加者は希望するルームに自由に行き来しながら、登壇者の話を聞き、質問を行うことができました。45分の車座タイム1の後、車座タイム2を行いました。

キャリアパスフォーラム終了後に回収したアンケートには、19名からの回答(回収率63%)があり、企画全体については概ね高い満足度が示されました。63.2%が「大変満足」、36.8%が「満足」と回答しており、自由記述では「曖昧だった卒業後のキャリアが少し明確になった」「多様な働き方があることを知ることができた」「今後の進路を考えるきっかけになった」といった声が多く寄せられました。特に「日本語学校の先生方のお話を直接聞く機会はこれまでほとんどなかったので貴重だった」「現場のリアルな声を聞けて参考になった」といった意見が複数見られ、日本語学校における実践やキャリア形成について具体的に知る機会となったことがうかがえます。

今後扱ってほしいテーマとしては、「日本語教育関連の大学院への進学」「国内の日本語教育機関でのキャリア形成」などが多く挙げられました。日本語教育分野で専門性を高める進路や、国内機関での具体的なキャリアパスへの関心の高さがうかがえます。登壇者からも「参加者の目的意識が高く、対話が深まった」といった声が寄せられました。

今回いただいたご感想やご意見は、今後のキャリアパスフォーラムの企画運営にぜひ活かしていきたいと考えております。ご登壇くださった皆様、ご参加の皆様に心より御礼申し上げます。

(チャレンジ支援委員会: 秋田、安達、立部、春口、戸川)



問合先: 公益社団法人日本語教育学会(チャレンジ支援委員会)

TEL: 03-3262-4291(9~18時のみ) E-mail: challenge@nkg.or.jp